

十一 私 の 自 殺

1. 私の内面の苦しい戦争

- ・ 外界の刺激におどりがあがる。
- ・ 恐ろしい力が動けないようになる。
お前は何をやる資格もない男だという声
- ・ ぐたりとしおれてしまう。
- ・ 一番楽な努力で遂行できるものは自殺より外にない。

=

薄志弱行で生きていく望みがない

- ・ 自殺を思い止まる。
 - ・ 妻と一緒に死ぬ勇氣はない。
 - ・ 私がいなくなった後の妻を想像すると不憫になる。

2. 明治天皇の崩御について

- ・ 明治の精神が終わった。
- ・ 最も強く明治の影響を受けた私が生き残るのは時勢遅れた。

3. 乃木大将の殉死

- ・ 乃木＝西南戦争で明治天皇の為に戦ったが、敵に旗を奪われ、死のうと思って生きてきた。
- ・ 私＝自分だけは正しい人間であると信念を持っていたが、Kを裏切って自殺させ、死のうと思って生きてきた。
- ・ K＝道を極めようとしたが、お嬢さんに恋をしまい、死のうと思った。

=

もっと早く死ぬべきだった

4. 私 の 自 殺

- ・ 明治の精神に殉死する。
- ・ 妻への配慮
 - ・ 妻に血の色を見せないで死ぬ。

=

襖が開けて自殺した

- ・ 長い遺書
 - ・ 青年に自分の生き方を伝えたかった。
 - ・ Kの自殺の原因が理解できた。

5. 明治の精神

- ・ 自分の正しい道を進もうとしたが、挫折してしまった。
← 明治という時代
 - ・ 新しい時代を築こうと努力してきたが、目的とは違う方向に進んでしまった。